

現代に続く音色の歴史 「多久聖廟の雅楽」展

4/1 [Wed] ~ 5/31 [Sun]

※5月6日(水・祝)までは休館



▲所蔵品のうち最古の楽器「鳳笙」



▲展示品が並ぶ郷土資料館

多久市郷土資料館開館40周年記念の企画展として、元禄時代から今もお続く、伝統の音色の歴史的背景に注目した「多久聖廟の雅楽」展を同資料館で開催中です。

資料館が所蔵するものでは、最古の楽器「鳳笙」や枳菜で着用する衣装、鮮やかな色使いで描かれた希少な孔子の絵巻など、23点の貴重な品々を展示。また、儒学で重要とされる音楽をさまざまな角度から紹介しています。

企画展を担当する同資料館学芸員の志佐喜栄さんは、「現在も枳菜で演奏されている雅楽がたどった歴史を、数々の展示品から感じていただけたら嬉しいです」と話し、多くの人の来場を期待しています。

わくわくいっぱい新1年生 義務教育学校3校で入学式

4/9 [Thu]

多久市内の義務教育学校3校で入学式が行われ、中央校85名、東部校32名、西溪校28名の新1年生が元気に入学しました。

入学式は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、時間を短縮し、在校生たちは各教室のテレビを通して、式の様子を見守りました。

中央校のしもむらまさひろ下村昌弘校長は、「みなさんの入学を心待ちにしていました。人の目を見てしっかり話を聞き、夢を持つことを忘れずに、楽しい学校生活を送りましょう。みなさんの頑張りがとても楽しみです」と、新1年生の入学を歓迎しました。



▲保護者と手をつなぎ、目を輝かせながら入場する新1年生(中央校)

厳かに開催 多久聖廟春季枳菜

4/18 [Sat]



▲孔子らの像の前に銀杏などを供える様子

多久聖廟で伝統行事、春季枳菜(主催:公益財団法人孔子の里)が開催されました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、雅楽の演奏を中止し、儒学の祖である孔子とその高弟への御供物のみとなりました。

さらに、義務教育学校の児童・生徒たちによる枳菜の舞や腰鼓なども中止となり、しめやかな枳菜となりました。

孔子の里のかめがわしやうへい亀川将平事務局長は、「緊急事態宣言が発令されたのを受け、みなさんの健康と安全を最優先し、式順を簡略化した略祭として開催しました。10月には、例年のように多くの来場者で賑わう秋季枳菜をとり行いたいです」と話されました。